

この力

一個、パンを分けよう。

分りあうと食べふたりの心
心と心が、心と心で通う。
心うちもうとまつこども。

山の上のあの花は、なんとう花だけ。

ツリガネソウだ。それ、どうだよ。

とばで、その花がほのかの花と區別され
いとばで過ぎ、春と日が、ようがえる。

「それは、そりどやな、こりどやなんだ。
わがれ、しかし、こりどやな、どうだ、

いとばと共に、生活が正しく流れ。
いとばと共に、おたがい、心がつながれる。

わかても食に受けつぐことは、

きようとあくへ、進みる、とば。

東と西とつなぐことば。
人間たりの持てる、いとば、力よ
、とばりすぐらへよ。

昭和27年7月20日 文部省検定済み 小学校国語科用（6年 6-1） 山本有三 編集

神戸市では、この本を採用しませんでした。

それで、私がいただき大事にしていました。5年用と6年一2を持っています。

私がこの詩に出会ったのは、21才の時でした。

食べ物が少なかった時代でもありますが、分かち合う心、感謝の心、素直な心 いいですね。

私は、大人になっても、老人になった今も ずっと持ち続けています。

私は、この詩が好きです。

言語の文化性を歌った詩ですが、戦後の荒廃した国土と人の心を日本人らしく民主主義国家に
立て直そうと、当時は考え、教育の場で教材として作られたものでしょう。

何かの役に立てば・・・・・・

戦中、戦後を生きた一人として、今一度、今こそ、必要と考えます。